

伝統芸能

はな 花鼓 つづみ

年四回ずつ、東京と大阪で
ない客席でのつづみやき。

文楽の定期公演が開かれる
お客さまから聞いたおもしろ
が、お客さまの雰囲気はかな
り違う。立地条件が対照的。
東京は皇居に面した最高裁判
所の隣にあるが、大阪は繁華
街の真ん中、至近距離にあや
しげなホテルが立ち並んでい
る人を、浄瑠璃を語る床から

よく見受けた。そのころ毎
ある。東京はシンとしている
が、大阪はにぎやかだ。こ
願への激しい拍手、笑いのど
よめき、すすり泣き、遠慮の

文楽太夫
豊竹英大夫



東京と大阪、観客の違い

そ食へ始めた。一人がおにぎ
りを落とし、かんで拾おう
としている気配だが、なかな
か見つからない。「あ、前の
ネエちゃん、の足元にころがっ
てる」。声をひそめているも
の丸顔こそ、おにぎりを取る
のを結局あきらめたが、姉
妹はパニックに陥り、芝居を
味わすところではなかった。

最近も、東京から来られた
人にこんな話を聞いた。休憩
時間、ロビーのソファに座る
隣のおばちゃんから声をかけ
られた。「おネエちゃん、こ
こにまだ居てはる?」。そし
て自分の手荷物を指さしながら
「ちよっとトイレにいって
くるからこれ、見といて」と
言われた。大阪ではよくある
話だが、東京ではあり得ない
ことらしい。

この二つの体験談は、決し
て大阪の流儀に慣って語られ
たものでない。浪花の開放的
な空気にひたりながら「文
楽」を体験できた、その新鮮
な驚きと喜びに溢れているの
である。

豊竹英大夫
—東京・国
立劇場で